

園池の整備範囲について

【遺構情報】

- ・鎌倉石・安山岩・風祭石によって構成される。
- ・石材が残る部分、抜き取りが確認される部分、遺構が失われている部分があり、全体形状が分かりにくい、池という性格上、3号切石敷遺構よりは想定しやすい。

【整備範囲について】

- ・3号切石敷遺構の考え方と同様に、用語の使い方を以下の通り定義する。

【復元範囲】…遺構が確認されている範囲

【想定範囲】…遺構の連続性が想定される範囲

■遺構情報の整理図



凡例

— 遺構確認・想定ライン
(痕跡や抜き取りから確認・想定される範囲)

... 推定ライン(遺構は確認されていないが推定される範囲)

■整備範囲の検討

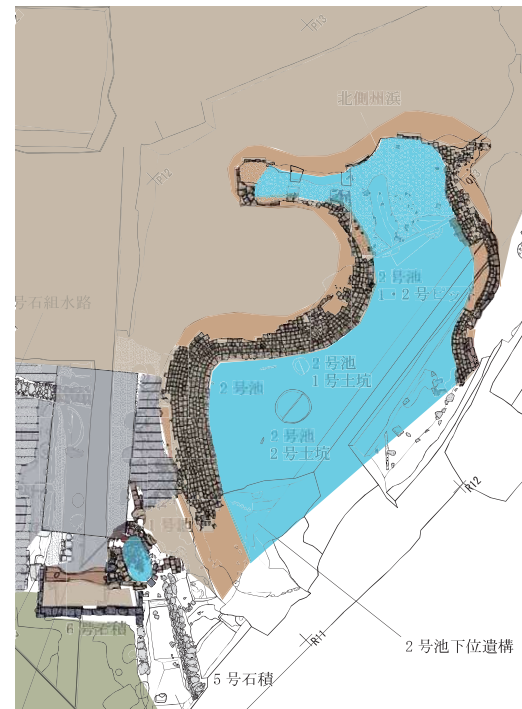
【確認事項】

- ・失われている範囲をどのように整備するか。

⇒遺構が確認されている範囲も再現となるため統一的に作成するか。

⇒3Dデータを使って再現することは可能だが、抜き穴のみの再現でない範囲は、色・形状等の寸法を細かく指示する必要がある。

A案:「復元範囲」のみ整備する。



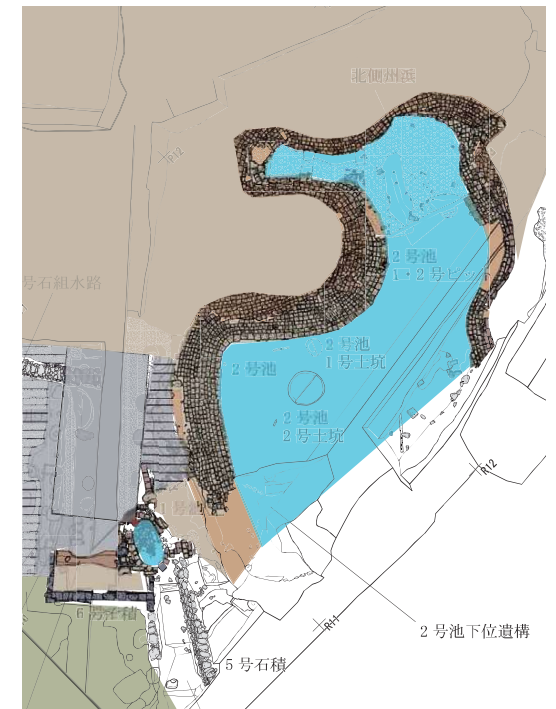
メリット

- ・確実に遺構が確認できた範囲を表現できる。

デメリット

- ・失われている箇所があるため、見学者が違和感を感じる可能性がある。
- ・張芝範囲の草刈りが技術的に難しい(丁寧な管理が必要)。

B案:「復元範囲」「想定範囲」を整備する。



メリット

- ・想定範囲も表現することによって、切石護岸の全体形状が把握しやすくなる。

デメリット

- ・想定範囲をどのように表現するかが課題である。
- ・復元範囲と同一の整備をした場合に、遺構で確認された範囲について誤解を招く可能性がある。

園池の整備方法の検討

【確認事項】

- ・ どこまでの再現性を求めるか。
 - ⇒ 色・形状まで求める場合はレプリカが有効である。
 - ⇒ 質感・イメージに拘る場合は、自然石が有効である。

■ 整備手法

【決定方針】

- ・ 石材や GRC・FRP 等のレプリカを組み合わせで整備を行う。

■ 復元範囲：レプリカで整備する。

メリット

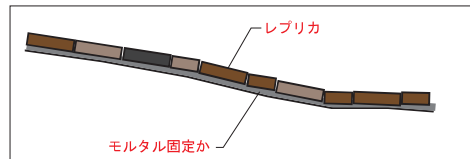
- ・ 遺構の状態をリアルに表現することができる。
- ・ 概算費上は石材よりも費用が安い。

デメリット

- ・ 破損した場合など一体的に取り外して補修する必要がある。
- ・ 形状が不明確であると製作が難しい場合がある。
- ・ 池での整備に際しては、長期間水に浸かる状況がレプリカの劣化を早める可能性も考えられる。
- ・ FRP は素材が軽量であることから、池での整備に使用する場合浮き上がりが生じる可能性があるため、十分な固定が必要となる。



レプリカでの瓦積塀の表現（御用米曲輪）



■ 想定範囲：石材・舗装・陶板等の他の素材で整備する。

A 案：切石の形状を再現する場合。

A-1 案：石材で表現する。

メリット

- ・ 切石遺構に近い整備ができる。
- ・ 自然的な雰囲気があり景観になじみやすい。

デメリット

- ・ 加工に技術を要する。
- ・ 代替の石材を確保する必要がある。
- ・ 実物と誤解される可能性があるか。



R4 年度工事で作成した板石

A-2 案：レプリカで表現する。

メリット

- ・ 復元範囲と同素材のため一体的に施工しやすい。

デメリット

- ・ 復元範囲との表現を分ける場合は色を変えるなどの工夫が必要となる。



土系舗装を使った遺構表示

B 案：切石の形状を再現しない場合。

B 案：舗装で表現する。

メリット

- ・ 確認されていない範囲を曖昧に表現することができる。
- ・ レプリカとの組み合わせ表示がしやすい。

デメリット

- ・ 一体的な表現となるため、切石を表現することはできない。



土系舗装を使った遺構表示

園池の整備範囲について

【遺構情報】

- ・鎌倉石・安山岩・風祭石によって構成される。
- ・石材が残る部分、抜き取りが確認される部分、遺構が失われている部分があり、全体形状が分かりにくい、池という性格上、3号切石敷遺構よりは想定しやすい。

【整備範囲について】

- ・3号切石敷遺構の考え方と同様に、用語の使い方を以下の通り定義する。

【復元範囲】…遺構が確認されている範囲

【想定範囲】…遺構の連続性が想定される範囲

■遺構情報の整理図



凡例

— 遺構確認・想定ライン
(痕跡や抜き取りから確認・想定される範囲)

... 推定ライン (遺構は確認されていないが推定される範囲)

■整備範囲の検討

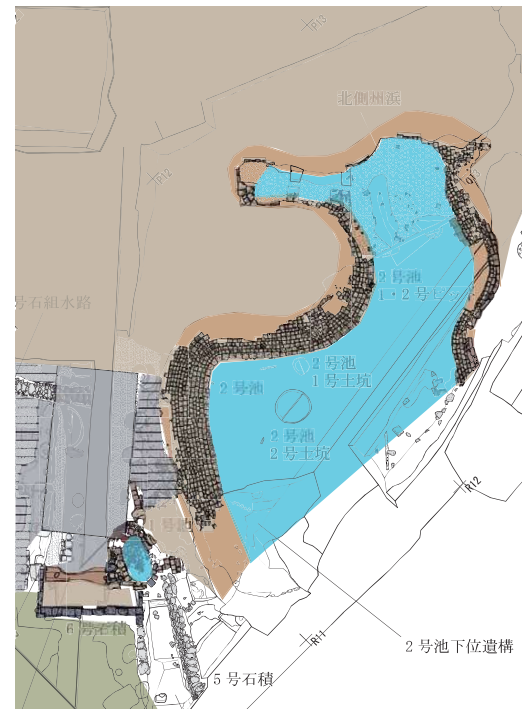
【確認事項】

- ・失われている範囲をどのように整備するか。

⇒遺構が確認されている範囲も再現となるため統一的に作成するか。

⇒3Dデータを使って再現することは可能だが、抜き穴のみの再現でない範囲は、色・形状等の寸法を細かく指示する必要がある。

A案：「復元範囲」のみ整備する。



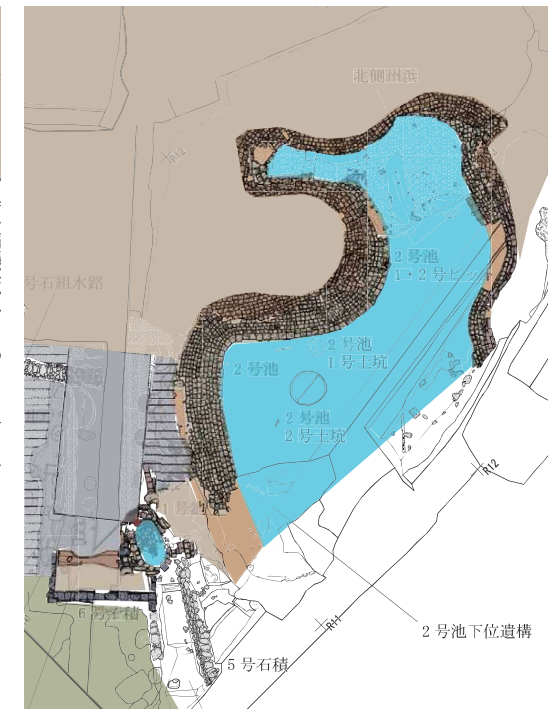
メリット

- ・確実に遺構が確認できた範囲を表現できる。

デメリット

- ・失われている箇所があるため、見学者が違和感を感じる可能性がある。
- ・張芝範囲の草刈りが技術的に難しい (丁寧な管理が必要)。

B案：「復元範囲」「想定範囲」を整備する。



メリット

- ・想定範囲も表現することによって、切石護岸の全体形状が把握しやすくなる。

デメリット

- ・想定範囲をどのように表現するかが課題である。
- ・復元範囲と同一の整備をした場合に、遺構で確認された範囲について誤解を招く可能性がある。

園池の整備方法の検討

【確認事項】

- ・ どこまでの再現性を求めるか。
 - ⇒ 色・形状まで求める場合はレプリカが有効である。
 - ⇒ 質感・イメージに拘る場合は、自然石が有効である。

■ 整備手法

【決定方針】

- ・ 石材や GRC・FRP 等のレプリカを組み合わせで整備を行う。

■ 復元範囲：レプリカで整備する。

メリット

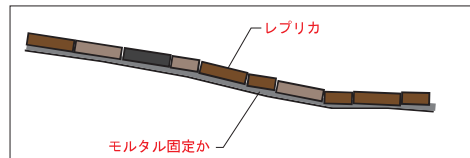
- ・ 遺構の状態をリアルに表現することができる。
- ・ 概算費上は石材よりも費用が安い。

デメリット

- ・ 破損した場合など一体的に取り外して補修する必要がある。
- ・ 形状が不明確であると製作が難しい場合がある。
- ・ 池での整備に際しては、長期間水に浸かる状況がレプリカの劣化を早める可能性も考えられる。
- ・ FRP は素材が軽量であることから、池での整備に使用する場合浮き上がりが生じる可能性があるため、十分な固定が必要となる。



レプリカでの瓦積塀の表現（御用米曲輪）



■ 想定範囲：石材・舗装・陶板等の他の素材で整備する。

A 案：切石の形状を再現する場合。

A-1 案：石材で表現する。

メリット

- ・ 切石遺構に近い整備ができる。
- ・ 自然的な雰囲気があり景観になじみやすい。

デメリット

- ・ 加工に技術を要する。
- ・ 代替の石材を確保する必要がある。
- ・ 実物と誤解される可能性があるか。



R4 年度工事で作成した板石

A-2 案：レプリカで表現する。

メリット

- ・ 復元範囲と同素材のため一体的に施工しやすい。

デメリット

- ・ 復元範囲との表現を分ける場合は色を変えるなどの工夫が必要となる。



土系舗装を使った遺構表示

B 案：切石の形状を再現しない場合。

B 案：舗装で表現する。

メリット

- ・ 確認されていない範囲を曖昧に表現することができる。
- ・ レプリカとの組み合わせ表示がしやすい。

デメリット

- ・ 一体的な表現となるため、切石を表現することはできない。



土系舗装を使った遺構表示

■かわらけ廃棄土坑の整備について

かわらけ廃棄土坑の表現方法

【遺構情報】

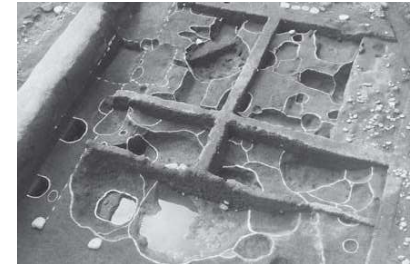
- ・建物範囲の西側にかわらけ廃棄土坑を確認。
- ・年代観は天正年間を主体にした 16 世紀後半のもの。

【確認事項】

- ・範囲が不明確である。
⇒ 3D データを使って再現することは可能だが、レプリカを作成するための寸法（面積・高さ関係）が決まっていないと設置方法の選定・金額算出が難しいとメーカーから意見をもらっている。



386号遺構かわらけ出土状況（北から）



K6・7g 付近かわらけ廃棄土坑群（北東から）

■整備手法

【決定方針】

- ・GRC・FRP 等を用いてレプリカで立体的に整備をする。

案 1：陶板に遺構の写真を焼付け、平面的に表示する。

【メリット】

- ・清掃が容易で、維持管理コストが低い。
- ・写真の焼付けによって、出土状況を分かりやすく表現できる。
- ・図面やスケッチ的表現など、解説板のように情報を加えやすい。
- ・段差が少なく、来訪者の歩行・バリアフリー対応が容易。

【デメリット】

- ・遺構の立体的な情報が伝わりにくい。
- ・展示としての空間体験が立体表示と比較して低い。
- ・遺構直上からの写真が必要となる。
- ・費用が高い。



安満遺跡公園（竪穴建物の床面）

案 2：FRP・GRC 等で立体的に復元表示する。

【メリット】

- ・遺構の出土状況を立体的に展示することができ、考古学的理解が深まる。
- ・遺構の雰囲気演出しやすく、来訪者が理解しやすい。

【デメリット】

- ・製作・設置コストが高い。
- ・経年劣化による維持管理が必要となる。
- ・周辺の遺構の展示方法との空間のバランスを検討する必要がある。

案 2-A：全体を FRP・GRC 等で製作する。

- ・遺構形状が明確な場合には一体的に整備しやすい。
- ・地下遺構の場合は、整備後の排水や清掃等の維持管理を十分検討した上で決定する必要がある。



柳之御所遺跡 廃棄穴表示①



柳之御所遺跡 廃棄穴表示②

案 2-B：舗装等の別素材と組み合わせて製作する。

- ・発掘状況や土溜まりの状況等、範囲が明確でない場合に舗装とレプリカを組み合わせると自然な仕上がりになる。



加茂岩倉遺跡 銅鐸表示



三内丸山遺跡 遺構表示

案 2-C：復元整備したものに蓋等を付けて汚れを防ぐ。

- ・他遺跡でも見られる整備手法だが、実物遺構の屋内展示に使われる場合が多い。
- ・復元整備したものに使う場合は表現として手厚すぎるか。
- ・設置した蓋が経年劣化で見えにくくなってしまう場合がある。



旧新橋停車場駅舎 遺構展示



柳之御所遺跡 遺構表示蓋

■石組水路・溝・山の整備

1. 石組水路の整備について

【整備対象の課題】

- ・整備後の来訪者の立ち入りをどのように考えるかで整備手法も変わってくる（レプリカで行う、石材の場合は固定するなど）。
- ・景石や護岸と異なり平坦地に一定の規格で展開されていることから、直接剥ぎ取りによるレプリカ作成でなくともよいと考えられるが、どの程度の再現性を求めるかが課題となる。

■整備方針

【決定方針】

- ・石材や GRC・FRP 等のレプリカを組み合わせて整備をする。

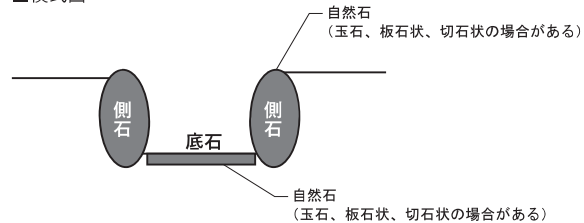
【メリット】

- ・遺構を保存しながら、当時の景観を表現することができる。
- ・石材とレプリカで遺構表現の差別化ができる（遺構が確認される所は石材、遺構が想定される所はレプリカ等）。
- ・入手しやすい材料に合わせて整備することができる（安山岩は手に入り易いが、鎌倉石・風祭石に類似の石材は困難な場合など）。

【デメリット】

- ・異なる素材の組み合わせで整備を行った場合、経年劣化でメンテナンスを行う際に素材の違いを把握した上で修理を行う必要がある（どの部分が石材でどの部分がレプリカか、管理マニュアル等で整理する必要がある）。

■模式図



■整備方法の検討

- ・ほとんどが玉石となる側石は石材を採用する。
- ・安山岩の板石、切石は石材の入手経路を確認した上で石材で整備する（困難な場合はレプリカ）
- ・復元にあたり、確認部分と想定部分の差別化は行わない。4号切石遺構等、遺構上重要と考える部分はレプリカで整備する。

【課題】

- ・工事実施の時点で確保できる石材の量に応じて、石材で整備できる範囲が変動する。
- ・構造的に石材での作り込みが難しい部分についてはレプリカで整備する方針となるか。



R4年度工事で使用した板石

R4年度工事で使用した
玉石・板石

レプリカ



底面が板石状



底面が玉石

2. 土の遺構について【溝、山】

【整備対象の課題】

- ・溝は遺構の前後関係が不明であるため、調査や検討を要する。
- ・溝は部分的であることから GRC で表現するか検討が必要である。
- ・斜面上部は、必要に応じて排水設備を加える必要がある。
- ・斜面の高さや勾配等の形状をどこまで復元検討できるかが課題となる。
- ・山は庭園の借景としてどのように考えるかが課題となる。

■溝の整備方針

【決定方針】

- ・GRC・FRP 等を用いてレプリカで立体的に整備をする。



レプリカ例①



レプリカ例②



自然石＋土系舗装

■山の整備方針

【決定方針】

- ・盛土と張芝（または地被植物）とともに、コンクリート構造物等を基礎としながら整備する。
- ・植栽を行う。

【メリット】

- ・構造物との組み合わせによって、土量の削減に繋がり、整備費を節約できる可能性がある（要検討）。
- ・植栽を行うことで広く一般の来訪者を呼び込みやすい。

【デメリット】

- ・部分的に崩落等した場合に、コンクリート構造物が見えてしまう可能性がある。
- ・植栽の維持管理が必要となる。
- ・復元的な整備となるため、当時あったとされる植栽の中から具体的な樹種の選定・植栽配置の検討等が必要となる（第6次調査時に花粉分析実施済）。

■建物の平面検討

①案：第1回部会での議論を整理した案

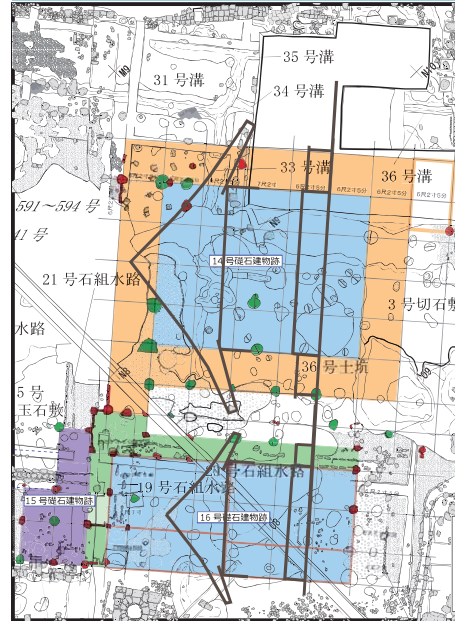


- ・第1回部会での議論を踏まえ、再検討を行った。
- ・南北方向は6尺2寸5分にこだわらず、4尺7寸で収めた。

〔課題〕

・軒の出は任意となるが、1m程度必要と考えた場合、断面図（図面茶色ライン）を用いて立体的に検討すると屋根がぶつかってしまう。

④案：第2回部会提示案

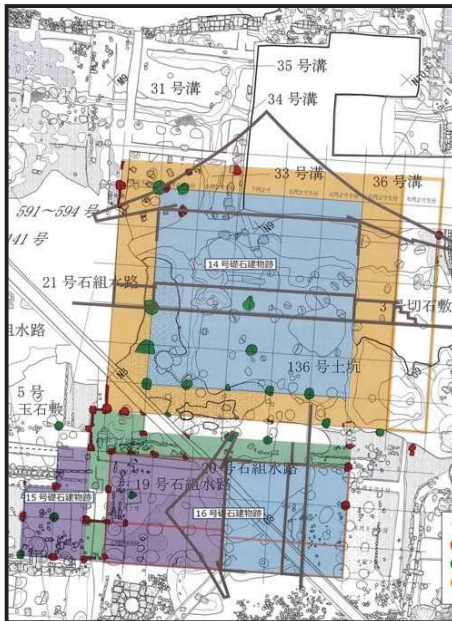


- ・底は6尺2寸5分で統一した。
- ・3号切石敷道幅脇の石を参考に、中門扉が取付くと想定した。
- ・15号礎石建物は、21号石組水路の位置とピットを参考に北側に拡張した。

〔課題〕

- ・庭園側に中門扉を設けるかどうか。
- ・15号礎石建物と16号礎石建物の接続部は一体的に縁として周る可能性もあるか。

②案：再検討案



- ・屋根の形状は入母屋ではなく、切妻造とした。軒が正面と背面のみ（東西方向）となることから、屋根形状も収められると考えた。
- ・底は南北方向を4尺7寸で収めた。

〔課題〕

- ・屋根がぶつかないとしても、14号礎石建物と16号礎石建物の間に隙間が残る、中庭としては狭い。
- ・庭園側に底を設けるかどうか。

⑤案：第2回部会での議論を整理した案

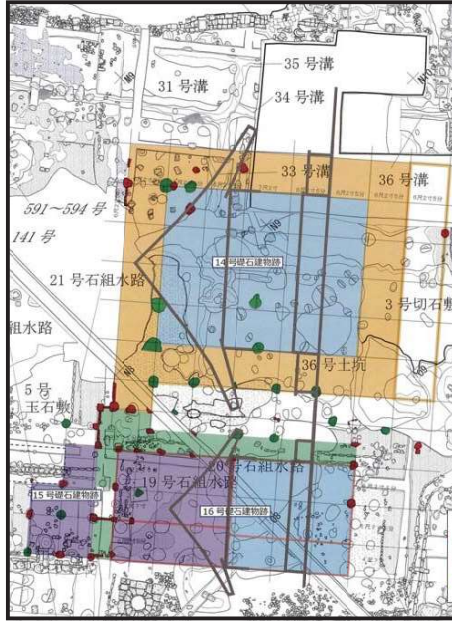


- ・14号礎石建物の底は6尺2寸5分で統一した。
- ・通廊で確認されている抜き取り穴を根拠として、想定できる範囲に留めた。

〔課題〕

- ・14号礎石建物は1尺2寸間を基準とした場合に柱間のバランスが取れなくなる。

③案：再検討案



- ・底は6尺2寸5分で統一した。
- ・14号礎石建物と16号礎石建物間を中庭として想定した。

〔課題〕

- ・庭園側に底を設けるかどうか。

⑥案：第3回部会提示案



- ・通廊で確認されている抜き取り穴を根拠として、想定できる範囲に留めた。
- ・14号礎石建物の底は南北を4尺7寸とした。
- ・14号礎石建物の母屋の柱間のバランスをとれる。
- ・16号礎石建物は北側副直を踏まえて石列までを建物範囲とした。

〔課題〕

- ・14号礎石建物と16号礎石建物の間が狭くなる。

■検討議論のまとめ

- （1）14号礎石建物と16号礎石建物の間の空間が極端に狭くなっている。
また、柱すじが通らない。

⇒14号と16号の造営に時期差があった可能性も考えられる。

▶①14・15・16号が造営

▶②動使が来るなど儀式や行事に伴い14・15号（ハレの建物）を建替えか？

- （2）15号礎石建物の建替の際に、外側にあった狭間石が内側に入るか？

・15号礎石建物と16号礎石建物の接続部は一体的に縁として周る可能性もあるか。

・狭間石があるから壁が取付くとは限らない。

- （3）建物の入口をどのように考えるか？

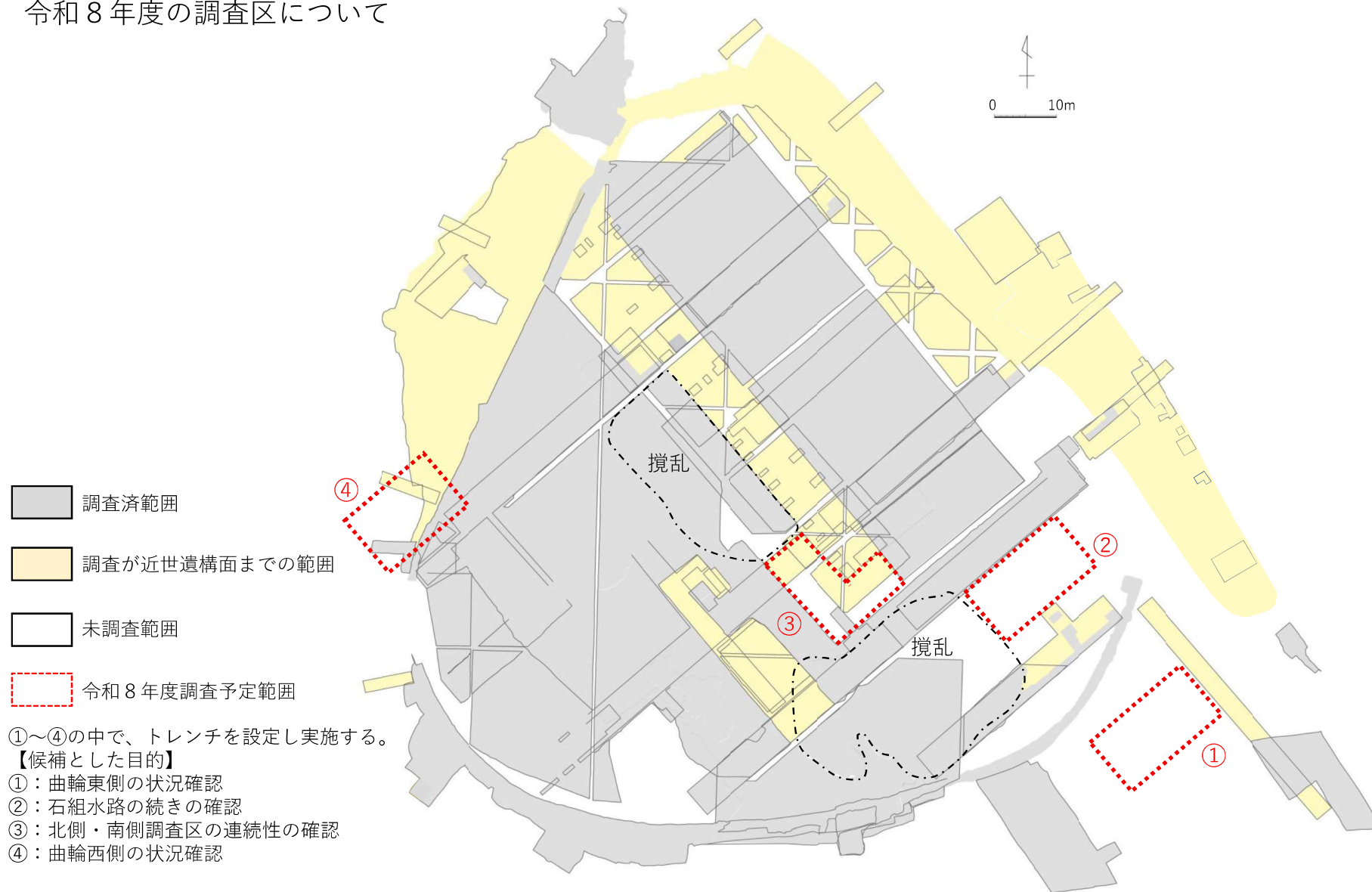
・この時期の屋根形状は入母屋と想定されるが、妻を北に向けるか、東に向けるか、どちらの可能性も想定できる。

・敷地の入口側に妻が並ぶ場合が多く、入口の配置によって屋根形状が変わるか。

・14号礎石建物の北側には広場があり、出入口も北側または東側となるか。

令和8年度の調査区について

資料3-2



■前回部会(令和7年度第2回2025.11.14)での指摘事項

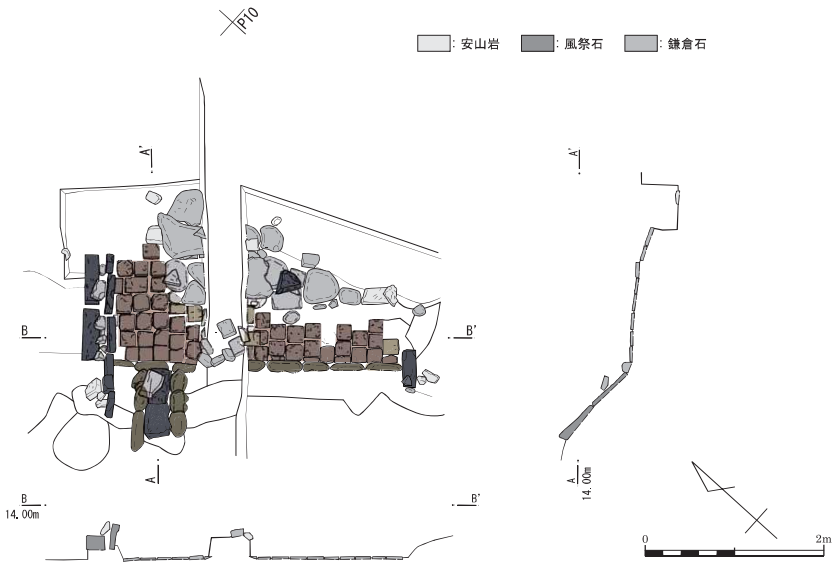
参考資料

対象項目	発言者	内容	決定事項	今後の検討事項	対応資料
【北側発掘調査】	佐々木	石組水路の配置図作成。			資料1ー1
	小野	区画溝をもう一回整理していただいて、各段階ごとの区画がどうなっていたのかということを出していただくと一層そのへんの答えが出てくる気がする。次回にはそういったデータも少しいただいて、議論を深めれば良いと思う。		区画溝の整理	
【北側発掘調査】調査の方向性について	中島	中層という存在が意識されたといっても、寛永と戦国期の間の、特に外側を巡る溝の内側の部分に建物があって積極的に使われていたという兆候は今のところ無さそうだと思うので、今のところは以前立てた戦国での整備を目指すという方針を変更しなくていいのではないかと考えている。	戦国期の整備を目指す		
	小沢	今のところ北条館と併存している時期というのが見られないということであれば、基本的にどちらを大事にするかと言ったら建物のほう。			
	小野	今まで立てた北条段階をメインにしてそこを何とか遺構を出して整備したいという大きな軸はぶれないという意見をいただいたかと思うので、よほど状況が変わらない限りはそれを委員会としてはこれまで通り堅持していきたいということで、発掘の方をしていく。それでよろしいか。それでは発掘の大方針としては今までのやり方を踏襲して、もう少し進めていきたいと思う。			
全体的な展示の表現方法	中島	全体として復元しているがあつたものと見つからなかったものの区別がつく形で展示するのかどうか。		復元展示での確認部分と想定部分の差別化について	
	高妻	復元の表現は検証できるように展示するのが大事だと思う。違う材料を組み合わせるとなると、ちょっと難しい。GRCでやるとなると、石があつた所に石を置いてとなるとその土の下ベースをどうするか。GRCがフレームを組んでいるので、フレームを組んでいる所に石をどうやって置くのかとか問題になると思う。			
	小野	本来なかったものを加えるときには基本的に新しい材料がわかりやすい、それから本来あつたものを復元的にやる場合はそれに近い素材近い形状のものをやるという、そういう使い分けでやれば良いと思っている。それが実際に組み合わせた時にあまり違和感がない形が良い。			
建物 礎石	小野	礎石については残っていない所はあえて加えないでやろうということになった。	礎石確認⇒ 石材で表現 礎石未確認⇒ 表現しない		資料2ー5
建物 抜き穴	小野	抜き跡をやるかやらないかという提案があつたが、抜き跡があつたとわかっているならば、それは抜き跡として表示してもわからないのだから石を置くというやり方で良いと思うので、その範囲までは先ほどの高妻さんの考え方原則通りで良いと思う。	抜き跡(柱穴)⇒ 礎石で表現		資料2ー5
建物 狭間石	小野	狭間石問題も本来あるはずだった所が偶然なかったなら復元したら良い。建物の範囲そのものが特に難しい、一番中心の建物が一番難しい。	狭間石⇒想定 できるところは 復元		資料2ー5
建物の表現方法	小野	建物範囲を議論した結果こういう範囲のサイズだと平面表示する。そこに残っていた礎石と抜き穴だけは石を置いて表現する。何かで縁取りする。何か違う素材で埋める。その時に、前は縁に切石を使おうと言っていたが、狭間石があるので、石を使うとわからなくなってしまう。だから、それを違う適切な材料をつかわないとぐちゃぐちゃになってしまう。中を充填するための素材は何が適切なのかという問題がある。		縁取り⇒ ・石と違う素材 ・石材 建物内の充填素材	資料2ー8
舗装材について	山田	内側の建物舗装はまだ決まっていなくて、砂っぽい感じの舗装が洗い出しのトップを人工的なものにするか、もしくは土系舗装で色を変えることもできるので、外側の空間の土系舗装と色違いで同じソイル系ということもできるかなと思う。		各場所(建物範囲・玉石や砂利敷が確認(想定)されていない範囲)の舗装材	資料2ー7・8

対象項目	発言者	内容	決定事項	今後の検討事項	対応資料
3号切石敷遺構 想定部分の表示の有無	小野	切石の庭園部分。線があるほうがわかりやすいのか、それともそこまでは想像しないというところで我慢するのか、そういうキーポイントになるところが一番問題だと思う。		①確認部分のみ展示の場合 ・範囲の検討 ・素材の検討 ②想定部分も含めて展示の場合 ・範囲の検討 ・全体同じ手法で復元か。 ・確認部分と想定部分で分けて展示か。その場合の各素材をどうするか。 ・北側：範囲はよいがモザイク模様に石を当てはめるかどうか。	資料2ー9・10
3号切石敷遺構の範囲	小野	切石のほうも、西側のほうにいくつか景石が並んでいるのでここまでは絶対あったはずだったと思うが、その間のラインをどのように作るか、もし作るとしたらどういう形で充填するか、そういう部分が一番の問題かなと思って聞いていた。			
切石庭園(3号切石敷)の復元	小野	もう一つが、切石庭園の復元をどこまで復元するかということだと思う。			
	佐々木	3号切石の上、石がほとんど残っていないので。			
	佐々木	範囲としては良いのだが、その間にどういう形でモザイク模様に石をはめるのかというのが。			
	小野	もう一つの議論が、石をはめるのか、それとも何かベタにやってしまっそこが切石の庭園の続きだったという形で表面処理をするというようにいくつかの選択があると思う。アイディアも疑問も反対意見も含めて、何かあれば委員の方から伺いたいと思う。それを元にして、山田さんのほうで、それを受けたらこんなやり方も絵には描けますよというのを用意してくれたら、松竹梅という感じで作ってもらいたい。その辺が一番議論の論点かと思う。			
かわらけ廃棄土坑の特徴について	小野	この北条の場合はどういう廃棄土坑といってもどういう単位のどんな種類の土坑があるのか、これなら今言われたような形である一つの塊としてそれだけやったら復元できるというデータがあるのかどうか。そこら辺も本当は材料を出していただくと良い。		かわらけ廃棄土坑の特徴の整理	資料1ー2
かわらけ廃棄土坑の表現方法①	佐々木	かわらけがガシャガシャと出ているインパクトというか発信力はあると思うので、個人的には立体的に見られたら良いと思うが、障害が色々ある。排水の問題とか、清掃の問題もあるので、その辺を評価のある良い案を出してもらえたらそれにしたいと思う。		かわらけ廃棄土坑の表現方法	資料2ー13
かわらけ廃棄土坑の表現方法②	高妻	かわらけが廃棄されている状況は非常に重要であるので、これは発掘した状況表現する。見せ方であるが、先ほどの陶板に写真を焼き付けてということと言ったと思うが、その一部を四角く落として、1m×1mくらいの面積の所をGRCなどで明確に表現する。やり方も組み合わせて考えていただきたい。			
かわらけ廃棄土坑の表現方法③	小野	現場だけでそれを考えないで、ガイダンス施設の室内の床下に同じものを作って、室内でそれを見せるというやり方をしている。			
かわらけ廃棄土坑の表現方法④	中島	立体復元したものを全部ガラスで固めて置くとか、そんな風な、汚れたり水がたまったりするのに対する対策を考えておかないと大変かなという気はする。			
かわらけ廃棄土坑の表現方法⑤	佐々木	土坑だけ表現してARで見せるとかが定番である。			
	小野	研究者や学生が来たときには元ネタ、本来の情報はどうだったのかというのを必ずそこをセットで見たいということになる。そうしたらWiFiだけでも施設があれば、あれは割と狭い空間であるから、自由にスマホで見られるということを各所でいくらでもやっているの、その選択肢もあるといいという気がする。			
	高妻	先ほど発掘した状況はどういう状況というのが迫力があって見せたい、という気持ちをあえて大切にしたい。			
	中島	やはり何でもVRIにはしないほうがよい。実際に自分の目で見て感じられるところを目指すというのは捨ててはいけないという点では私も全く同意見である。			
建物の検討		第2回議論をふまえた案作成		14号建物の範囲	資料2ー15



第79図 3号切石敷遺構実測図 (1/60)



第78図 2号切石敷遺構実測図 (1/60)

凡例

安山岩	
風祭石	
鎌倉石	
	復元想定



第82图 2号池下層実測図 (1/100)
—147・148—